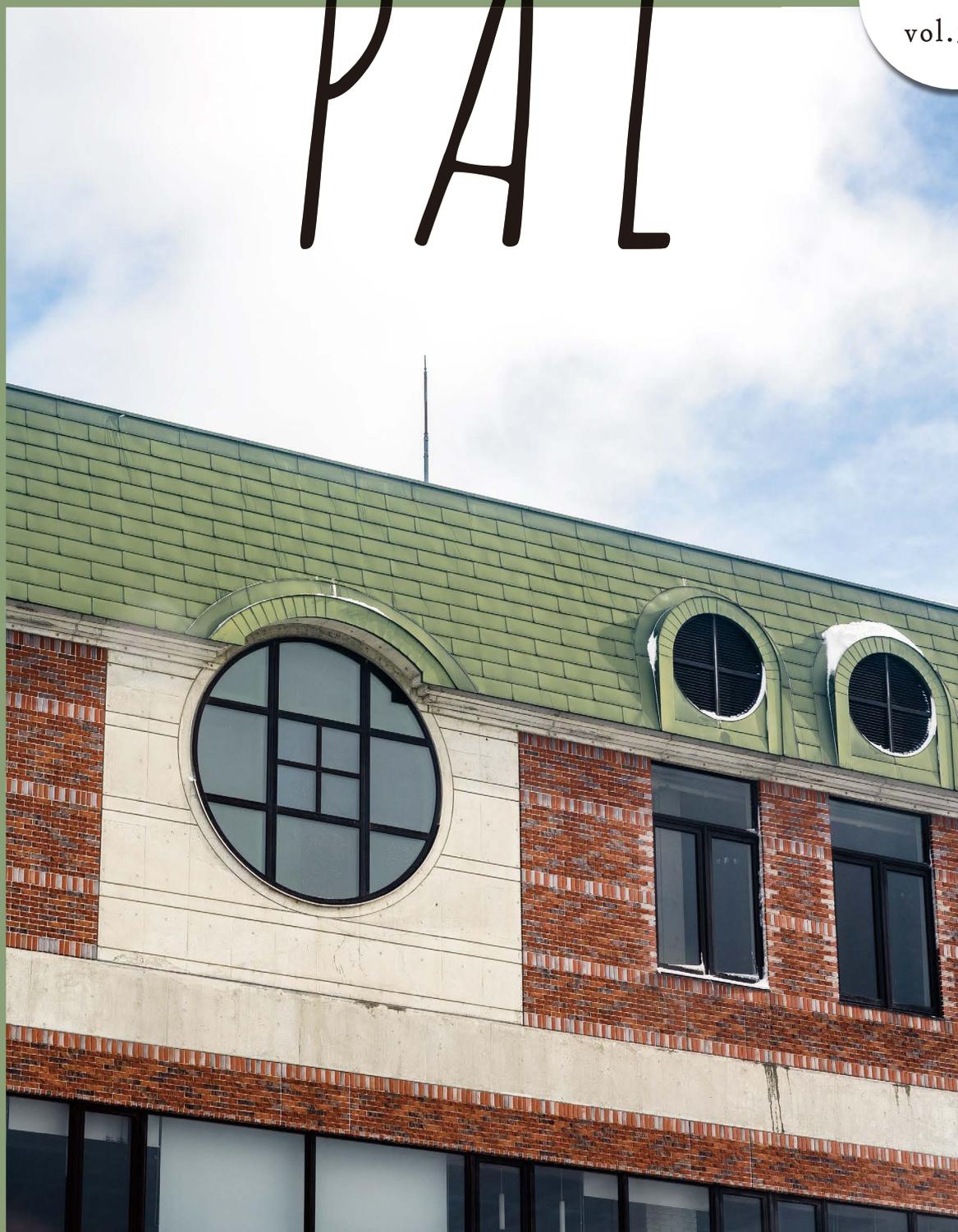


PAL

from April 2021 to March 2022 for the Future

Place Amie Liberte



特集 | 学長インタビュー

本格始動、教職員一体で挑む
未来プロジェクト。

北翔大学 子ども食堂・地域食堂

学生とともに、地域の人々の居場所づくり

ワクチン大学拠点接種
北翔の地域連携

キャンパス事件簿

2021年間ダイジェスト

学部・学科ニュース

北翔大学ファン





本格始動、

教職員一体で挑む
未来プロジェクト。

北翔大学・北翔大学短期大学部 学長

山谷 敬三郎

やまや・けいざぶろう／1952年、遠軽町出身。2018年2月より本学学長。1976年、北海道教育大学・教育学部を卒業。中学校教諭、北海道教育委員会を経て、1997年に本学短期大学部・初等教育学科に助教として着任。2010年、東北大学大学院後期博士課程（教育情報学）を修了。日本教育心理学会代議員、日本応用教育心理学会理事、日本学校心理学会理事、北海道教育相談スーパーバイザーなど役職多数。

私は2018年2月に学長を拝命して以来、本学をより価値ある教育の場とするため、教職員のみなさんと力を合わせてまいりました。そしてこの度、さらに1期4年間、学長の職を継続することになりましたので、後述する第4期中期計画のビジョンを実現すべく、新たに気を引き締め直しているところです。

2021年度は前年度から引き続き、コロナ禍と向きあいながらの大学運営を余儀なくされました。幸い4月の入学式は開催できましたが、5月の連休以降から感染者が増え、遠隔授業に移行せざるを得ない局面も。学生には大学らしい対面授業を思う存分に味わわせてあげられませんでした。それでも年間を通して授業全体の7〜8割を対面で行う

ことができました。そんななかで印象的だったのは、廊下ですれ違った学生の多くが、マスクをしながらもきちんとあいさつをしてくれたことです。開学から培ってきた本学らしい礼儀正しさを明らかな、こうした状況下でも引き継がれていることが大変うれしく、

教職員や同窓会をはじめ多くの方々のサポートがあったからこそだと感じております。

本学の未来像を示す 7つのビジョン

新しい動きとしては、2021年度から大学院の生涯スポーツ学研究科に「生涯スポーツ学専攻博士後期課程」を開設しました。これは「博士（スポーツ科学）」の学位を取得できる、東北以北で唯一の博士後期課程であり、本学の教育研究活動をいっそう高度化する一歩となりました。

また本学の未来プロジェクトとして第4期中期計画（5年間）が策定され、そのスタート年度でもありました。今回の中期計画では、本学がめざす7つのビジョンを掲げています。列挙しますと、①人に寄りそい支える人を育てる大学、②新たな価値を創造する大学、③学生一人ひとりの魅力をその学生の「チカラ」に変える大学、④学生が夢中になって取り組むことを支援する大学、⑤100年続く大学、⑥地域のニーズに応える大学、⑦教職員一人ひとりが学生と大学のファンであり続ける大学、というものです。

本学の存在意義を示す建学の精神は「自立できる社会人の育成」を核としており、そのために学生と教職員

一人ひとりの優しさを基盤として教養を身につけ、
7つの学科で優れた専門性を磨いてほしい。



が大切にすべき教育の理念として「愛と和と英知」があります。人や社会に寄りそい（愛）、人とともに考え（和）、よりよい答えを導き出すための知識・技術を持つこと（英知）により、力強く自立できる社会人をめざしてほしい。たとえば、「子どもたちの成長」や「地域で暮らす人々の幸せ」など、それらを願う優しさを基盤として教養を身につけ、各学科で優れた専門性を磨いてほしい。そのための大学づくりに向けた指針が7つのビジョンです。

卒業生や保護者の みなさまとともに

2022年度は、このビジョンをもとに具体的な取り組みを推進します。

その一つが学生の「チカラ」、つまり学修成果の見える化です。各科目の達成目標をどの程度実現できているのかを確かめるためのツールを用意するほか、ディプロマポリシー（学位授与方針）の各項目をどの程度達成できているのかを1年次から経年的に比較できるツールも本格導入する予定です。これらによって学生は自ら学修の軌跡を振り返り、その先の方針を明確にできるほか、教員も学生一人ひとりに応じた指導に生かすことができます。

さて、ここまで建学の精神、教育の理念、中期計画のビジョンとその具体的施策の一例についてお伝えしてきましたが、それらを実現するための「教育・研究」「学生支援」「管理・運営」「地域連携」に関わる重点項目も中期計画の中で策定しました。「教育・研究」については、北方圏学術情報センター（札幌円山キャンパス）や北方圏生涯スポーツ研究所（スポーツ科学センター）といった研究拠点を生かし科学研究に積極的に取り組むこと、また各学科の強みをさらに光らせ、よりいっそう地域に貢献できる教育研究活動を進めます。「学生支援」では、部活動やボランティア活動、学生自治会活動などを積極的に進められるようにサポートします。

「管理・運営」はやはり、充実した学



生生活を通して数多くの思い出をつくってもらうためのキャンパスの整備、そして「地域連携」としては、江別市内や道内の高校・小学校との教育連携をはじめ、江別市内4大学、江別市、江別商工会議所と形成したプラットフォームでの共同事業・研究が始まっています。

以上のことを進めるにあたり、卒業生の方には情報提供など多様なかたちでご支援をいただき、保護者の方には学生の活躍に声援を送っていただけましたら幸いに存じます。北翔大学を愛してくださるファンのお一人として、本学をお見守りいただけますよう、どうぞよろしくお願いたします。

学生とともに、 地域の人のための 居場所づくり

北翔大学 子ども食堂・地域食堂

健康福祉学科では2017年から、本学のある江別市への地域貢献を目的として、地域で暮らす多様な方々の居場所づくりを支援する「北翔大学子ども食堂・地域食堂」をスタート。社会福祉士と介護福祉士を養成する教員で構成された「居場所づくり支援研究・実践グループ」によって継続的に企画・運営されています。

初年度から徐々に運営体制が確立され、2019年には野幌地区のコミュニティスペース「八丁目プラザのっぽ」と、江別地区の「真願寺」という2つの拠点にて、交互に月1回のペースで食堂をオープンさせることができました。しかしながらコロナの影響により、2020年4月以降は食堂というかたちでの運営は

断念せざるを得ず、休止になったり、食堂以外の企画で活動が続けてきました。2021年11月の時点では、野幌地区でお弁当やお菓子などの無料提供、江別地区でお弁当の無料提供付き「お楽しみ会」を開催しています。

学生を成長させる 多様な出会い

この取り組みには毎回、健康福祉学科の学生も多数参加。1年次は基礎教育セミナー、2年次はコミュニティワーク実習という授業の一環としてかわり、3年次以降はゼミ単位や個人での希望者を募っています。社会福祉学が専門で、運営グループの代表を務める岩本希講師は、「学生と遊びたいお子さんや、学生とお



お子さんも、高齢の方も、そして学生も、
みんなで食べるとおいしい！楽しい！



しゃべりがしたい高齢者など、学生に会いたくて訪れているという方がとても多いんですよ」と、学生たちのチカラに感心している様子。そうしたふれあいを通して、どのような学びが得られることを期待しているのでしょうか。

「お子さん、その保護者や高齢者の方々、障がいのある方もいらっしやうて、本当に地域の縮図のような空間が生まれるんです。そのような場でさまざまな方とかわかることを通して、誰とでもコミュニケーションができるようになってほしいと思っています。障がいのある方とかわるのは苦手という学生は多いのですが、その理由を考えさせると、単純に知り合っただけではないからということに気づくんではないかと。また子どもが苦手だったけれど、子どもから求められたら、それに応えてあげたい

と思ったという学生もいました。これまであまり接してこなかった人との出会いを通して、知らなかった自分とも出会ってほしいです」。

地域で暮らすみんなが 知り合える場に

運営費は助成金や寄附 大学祭で開催する「お宝バザー」の売上金から捻出してきましたが、コロナ禍により大学祭が2年連続で中止となり、2021年は10月に「お宝ミニバザー」を単独で実施。おもに本学教職員から募った衣類や雑貨などの「お宝」を来場された地域の方に1点100円で販売し、3万円以上をお買い上げいただきました。

「バザーの売上金で、コロナ以前は食堂メニューの食材を購入していましたが、今はお弁当やお菓子を購入しています。お弁当は本学PAL2

階に出店しているハマナスクラブさから安く分けていただいています。また、お米はJAさん、野菜は地域の農家さん、お菓子の一部は地元企業さんが無償提供してくださるなど、地域のみなさまには本当に感謝しています」。

そう語る岩本講師に今後の展望を聞きました。「まずは子ども食堂・地域食堂として再開できるのがいちばんです。人が集まり、お話ができて、顔見知りになる。そうすることで孤独感というのは少なくなっていくものです。高齢の女性と障がいのある青年が食堂で知り合い、その後、スイーパーで出会ってお話をしたというエピソードを聞いたときに、これこそめざすものだと思います。より多くの人が知り合うことができるような活動を、細く長く続けていきたいと思っています」。



	1
3	2
4	

1. 学生が考案したメニュー「豚肉ときのこのソテー」(2019年2月/八丁目プラザのっぽ)
2. 親子連れや高齢者などの参加者と食事を楽しむ学生たち(2019年11月/八丁目プラザのっぽ)
3. 「わくわくお楽しみ会」(左ページ下)で子どもと遊ぶ学生(2021年11月/真願寺)
4. コロナ禍で食堂を開店できない現在は、お弁当などを無料提供(2021年8月/真願寺)

	5
7	6

5. 弁当配布会で菓子を配る学生(2021年7月/八丁目プラザのっぽ)
6. 地域の農家さんから寄付していただいたキャベツなどの野菜(2021年11月/真願寺)
7. 調理中の学生と住民ボランティアのみなさん(2019年11月/八丁目プラザのっぽ)



子ども食堂・地域食堂 ☆しんがんじ わくわくお楽しみ会

2021年11月3日に江別駅からほど近い真願寺で開催され、約70名が参加しました。スタッフは住民ボランティアや教員、学生などを合わせて約30名。大人も子どももみんなで遊べる「お楽しみゲーム」や、子どもにもやさしいミニ法話「おしえて住職さん」などを企画し、参加者にはお弁当やお菓子、お米、野菜をプレゼントしました。



ワクチン大学拠点接種 キャンパスの

日常が戻る ことを願って。

札幌学院大学と合同で、両大学関係者を対象に
新型コロナウイルスの大学拠点接種を実施しました。

本学では2021年9・10月、札幌学院大学と合同で新型コロナウイルスの大学拠点接種を実施しました。学生や教職員をはじめとした関係者を対象としたもので、札幌学院大学のホール施設を拠点に、1回目接種は9月の4日間、2回目接種は10月の4日間で日程が組まれました。

対象人数は両大学を合わせて3600名で、本学分の接種者数は1回目1041名、2回目1037名。全員が滞りなく接種を受けることができました。

この大学拠点接種は、以下のことを期待して実施されました。①両大学ともに対面を中心とした授業や実習が円滑に進められるようになること、②部活動などの課外活動が安全に実施できるようになること、③一人ひとりの免疫力が高まることで集団免疫力が高まり周囲の人をも守ること、④コロナ禍の影響を受ける以前の大学生活を送ることができるようになること。

現在も予断を許さない状況が続いており、一人ひとりがしっかり感染対策を心がけることが求められます。



北翔の地域連携

大学の知と熱を、 地域で暮らす人々へ。

1年で生まれた「つながり」の一例をご紹介します。

中学生が来学

2021年7月19日には、小樽市立朝里中学校の2年生16名と教員2名が来学。健康福祉学科・小田史郎教授による「睡眠は大事？ 充実したパフォーマンスを発揮するために」などの模擬授業や、福祉施設見学を通して、大学の雰囲気に触れてもらいました。10月19日にお招きしたのは、深川市立深川中学校の2年生51名と教員6名。宿泊研修中の職業教育プログラムとして、健康福祉学科・



久野真知子講師の「人の相談にのる仕事」ソーシャルワーカー」、芸術学科・千里政文教授の「防災教育と建築」(写真上)などの講義を体験してもらいました。両校の生徒のみなさんは熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

小学校で演舞を披露

7月21日の夜、本学と連携協定を結んでいる江別市立文京台小学校のイベント「Summer Night Festival」(輝き)にて、本学YOSAKOIソーランサークルの5名が演舞を披露しました(写真下)。グラウンドに児童とご家族のみなさんが集まり、19時に校長先生のあいさつで開演。5年生はYOSAKOI演舞、6年生は器楽演奏を行い、元気いっぱい練習の成果を發揮していました。そしていよいよ本学学生の登場。密を避けるため、



少人数での演舞となりましたが、児童のみなさんは、大学生のお兄さん・お姉さんの力強い動きに目を輝かせていました。

オンライン教養講座を開講

本学の地域連携センターでは、地域の方々を対象にした教養講座を開講していますが、コロナ禍によって対面講座の開講が難しくなりました。そこで2021年度は、全7学科の教員がYouTubeやZoomを使って配信するオンライン講座を企画。7月から11月にかけて13講座を提供し、11月末時点でべ1500名以上に視聴いただきました。各回とも好評を得ており、教育学科の教員3名による「音楽鑑賞の魅力」では、「コンサートに行く機会がないので、自宅にいながら雰囲気を味わうことができてよかった」という声をいただきました。

キャンパス 事件簿

File 1

暴風雨による倒木が発生
樹木医さんにSOS!



事

件が起こったのは、2021年6月4日のこと。暴風雨のなか、本学職員がキャンパス内の外周付近にて、1本の倒木を発見したのです。位置は正門前の文教通り沿いで、道路側に倒れた木が電線に引っかかって止まっている状況でした(右の写真)。この報告を受け、対応に奔走したのは、総務課の職員です。「まずは急ぎでカラーコーンを設置し、通行禁止としました。それからすぐに撤去の手配をし、北電に連絡をしました。電線に引っかかったことで歩行者や自動車などの被害がなく、また電線の破損もなかったため周辺エリアが停電にならなかったのは幸いでした。」

この事件を受け、キャンパス内に植えられた樹木300本以上の状態を一斉調査することになりました。担当していた

ただいた樹木医の方によると、60本ほどが空洞化などの問題を抱えていることが判明。そこで11月に約2週間をかけ、キャンパス外周の道路に隣接するエリアを中心に樹木の処置を実施。樹木の状態によって、高さを抑えて倒れづらくする「切り詰め」、それでも難しいと判断されたものは「伐採」という2通りの方法が進められました。左の写真は「伐採」前後の様子です。「年が明けて1月には重たい雪が降る日が続きましたが、この処置があったからこそ、倒れずに澄んだ木があるかもしれません」と振り返る総務課の職員は、今後もキャンパス全体の環境整備に力を入れていくとのこと。

「樹木だけに限らず、さまざまな施設・設備の美化を図るとともに、安全性を高めていきたいと考えています」。

木々の健康を守り、安心・安全で、美しいキャンパスへ。



「せ〜のっ」と学生がかけ声を掛けると、幕別町の高齢者たちが右手をパーにして胸のところに、左手をグーにして腕を伸ばします。今度は反対、左右を変えていきます。何回か繰り返すと「あれ〜違うね」と笑い声が上がりました。笑うのも介護予防のうち。元気になります。



2021年11月27日札幌内スポーツセンターで、健康福祉学科の介護予防プロジェクト「コロナが消えたら旅行に行こう!〜今だからこそ健康づくり〜」を実施しました。幕別清陵高校の福祉コース2年生も高齢者と一緒に体操し、お話し相手も務めていただきました。介護予防体操「ゆる元」は健康福祉学科の4年生・2年生が指導者資格を取ってこの日が指導者デビュー、頑張りました!当日は午前・午後と一日を通して高齢者40名ほどに参加していただきました。



YouTube動画「コロナが消えたら旅行に行こう!」◇373回再生されました。
https://youtu.be/Tg9zS0Y0sHU

健康福祉学科

Department of Health and Welfare Science

「せ〜のっ」で介護予防
〜幕別清陵高校とのコラボイベント〜

北海道の豊かな自然を生かした「野外教育実習」では、実習中に雨が降っても、今ある環境の中で工夫して活動します。雨が降って「どうしよう」ではなく「どうにかしよう」という考え方です。



コロナ禍前は日高で3泊4日テント泊の実習でしたが、コロナ禍2年目は「どうにかしよう」の精神で、ブルーシートでタープを立てたり、大学の隣にある野幌森林公園を散策しました。人間の力が及ばないものに対峙しながらも、身近で豊かな自然を感じた実習を通して、自分自身や他者そして自然に対する理解を深める活動となりました。



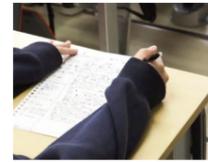
スポーツ教育学科

Department of Sport Education

「どうにかしよう」
〜コロナ禍2年目の野外教育実習〜

生涯スポーツ学部

2021年10月27日、「幼稚園教育実習報告会」がありました。コロナ禍で準備に難しさがあった教育実習ではありましたが、3年生の報告の様子から本当にたくさんのことを学んでいるのだと実感させられました。また、来年教育実習に行く後輩へのメッセージも自分の失敗談を交えながら、ポイントをしばって、それぞれが誠実に心から伝えようとしていました。



2年生と3年生が同じ空間で90分以上話を真剣に聞き続けていました。その眼差しから、学生たちの素晴らしさを感じました。学ぶ意欲に溢れています。



教育学科

Department of Education

素晴らしい時間
〜幼稚園教育実習報告会〜

教育文化学部

学部・学科ニュース

UNIVERSITY & COLLEGE NEWS

2021年12月21日に「実習報告会」を開催しました。コロナ禍で実習日程の変更や中断がありましたが、2年次の教育実習と保育実習の全実習が無事に終了しました。



各実習において、子どもの気持ちを受容し共感することが大切であること、活動に向けての準備をしっかりとすること、失敗を恐れずに自分から進んで行動することなど、子どもが健やかに生活するための環境や保育者・教育者の心構えを学ぶことができたこと報告されました。

来年度実習を控えた学生からは、厳しい環境を強みに変えて頑張りたいと決意があり、充実した報告会となりました。



こども学科

Department of Childhood Studies

実習報告会
〜未来の姿とやりがいのある仕事〜

ライフデザイン学科は、入学当初から学生一人ひとりにファイル「キャリアデザイン」を配布し、半年ごとの学生個別目標・キャリアプランニングを掲げて取り組んでいます。また、キャリアデザインコース設置科目「ビジネスワークショップ」は、前期・後期を通じた活きたビジネス教育を展開しています。特に後期には、江別市内生産者の方々からの商品仕入れ、営業・販売、そして商品管理・財務管理等ビジネスの一連を学生たちが担っています。



本学科の教育課程は、産学官連携による活きたビジネス教育、学生の主体性を導く教育で成り立っています。



ライフデザイン学科

Department of Life Design Studies

充実感! 笑顔が証!
主体性導く日々の学び

短期大学部

2年次のゼミ「心理学基礎演習II」における共同研究の発表会を2021年12月6日、13日に開催しました。



コロナ禍におけるマスク着用に関する心理的影響や、きょうだいの型、そして現代の若者のひとつのあり様を示す「オタク」といった多彩なテーマを取り上げました。

この日は次年度の学修に生かしてもらうために、1年次学生にも発表を聞いてもらいました。

危機管理行動レベルが以前よりも緩和されたために、対面で実施できたことは幸いでした。どの発表においても活発な質疑応答がなされ、有意義な時間となりました。



心理カウンセリング学科

Department of Psychology and Counseling

2年ゼミ共同研究発表会

2021年11月5・6日に北翔舞台芸術(芸術学科舞台芸術分野)の4年目公演 Vol.16「あなたがわかったと言うまで」(作:杉浦久幸、演出:村松幹男)、11月19・20日に3年目公演 Vol.18「来来来来」(作:本谷有希子、演出:森一生)の公演を札幌円山キャンパス多目的ホールで上演しました。



3年目公演「来来来来」

コロナ感染対策を図りつつ、完全予約制での有観客で開催しました。観客数を制限しなければならぬことから、有料ライブ配信も行いました。少しずつ配信技術も上がり、来場できない遠方の方々にも見てもらえるようになりました。



4年目公演「あなたがわかったと言うまで」

芸術学科

Department of Art and Design

北翔舞台芸術4年目公演、
3年目公演を連続上演

Sports 学生体操競技選手権大会でスポーツ教育学科2年・大谷直希さんが活躍

大谷 直希 ◆2021年度全日本学生体操競技選手権大会2部1種目別選手権馬優勝ゆか3位 ◆2021年度東北北海道学生体操競技選手権大会1個人総合優勝 ◆種目別選手権ゆか優勝 あん馬優勝 つり輪優勝 跳馬優勝 平行棒優勝 鉄棒準優勝

2021年9月1〜4日に静岡県静岡市草薙総合運動場体育館において「2021全日本学生体操競技選手権大会」が、11月5〜6日に宮城県仙台大学体操競技場において「2021年度東北北海道学生体操競技選手権大会」が行われました。本学から出場した大谷直希さん（生涯スポーツ学部スポーツ教育学科2年）が優秀な成績を収めました。コロナ禍での活動制限等が続き、大会出場へ向けてはさまざまな困難がありましたが、皆様から多大なるご支援を頂きましたことに心より感謝申し上げます。



Sports 元世界陸上代表・北風沙織さん、本学陸上部監督に就任



報知新聞社提供

卒業生で07年世界陸上代表の北風沙織さんが1月、本学陸上部監督に就任しました。道外大学や実業団に向かう高校生も多い中、「北海道の慣れ親しんだ環境で、継続強化で選手を伸ばしたい」と意気込みを語る北風さん。恵庭北高より北海道ハイテクAC在籍時の恩師である中村宏之氏の練習法を引き継ぎ、冬季はミニハードル走、体幹、筋力トレーニングを通じて屋内で基礎を鍛え、夏季は現役時代に取組んだ8割程度の力で走る200メートル走を導入したい考え。昨年、札幌で開催された東京五輪陸上競技では選手サポートを担当して裏方の役割を実感したといい、「感謝の気持ちを忘れない指導をした」と語りました。

Event アートラボ、学外作品展とクリスマスデコレーションを開催

芸術学科では今年度より、学年や専攻分野に関わらずアートやデザインに関するプロジェクトを企画・参加できる試み「芸術学科アートラボ」が始まりました。第1弾は2021年10月30・31日、イオンタウン江別で学科作品展を実施。学生有志20名が参加、展覧会では本学科の特色である芸術5分野の取り組みを紹介し、200名以上の市民にご来場いただきました。

第2弾は12月18〜24日、学生自治会とのタッグで1号棟正面玄関ロビーにクリスマス装飾を実施。コロナ禍の中、大学キャンパスを少しでも明るくしたいという想いから始まり、授業の合間や課外時間を使ってアイデアを形にしながら準備しました。ご指導、ご支援いただいた皆様に感謝いたします。



*江別市大学連携調査研究事業「地域活性化のためのメディアアートプロジェクト」の調査活動の一環として、北海道情報大学と共同で実施されました。

Report 令和3年度保護者懇談会を開催



2021年9月26日に、学生の就学状況、学生生活及び就職活動等について、保護者の皆様にご理解いただくことを目的として、保護者懇談会を開催いたしました。

コロナ禍での開催ということで、本学会場による対面形式のほか、オンライン形式での面談も実施し、計149名の保護者の皆様にご参加いただきました。当日は通信環境の不具合などによりご迷惑をおかけした保護者の方々もいらっしゃいましたが、大学の様子などを聞くことができ大変良かったとの感想をいただきました。

これからも教職員一同、学生が成長し、充実した学生生活を送ることができるよう、しっかりサポートして参ります。

Report ボランティア団体みんぐる「歩いて健康、拾ってキレイ ゴミ拾いウォーキング」開催

健康福祉学科・岩本ゼミの学生がボランティアサークル「ボランティア団体みんぐる」を立ち上げました。記念すべき第1回の活動として、2021年7月15日15〜16時に「ごみ拾いウォーキング」を実施。文京台エリアを中心に、5つのグループに分かれて約40分行いました。

「2、3人でもきてくれたらいいね」とワクワクドキドキしながら迎えた当日、なんと20名以上の地域の方々にお集まりいただきました。学生たちも一生懸命頑張って交流することができ、「楽しかった」とのこと。大学に戻ってからは反省会を実施しました。

今後とも「ボランティア団体みんぐる」の活動をよろしくお願いたします。



Report ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携機関(体力測定)に本学が指定される



本学は独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)のハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)が設置する「ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携機関(体力測定)」として、2021年10月25日に指定されました。同機関は、地域におけるスポーツ科学・医学・情報サポートまたはスポーツ科学・医学・情報に関する研究ができる機関で、国際競技大会等で優れた成績を目指すトップアスリートのフィットネスチェック(体力測定)などを実施します。

全国で9機関が指定され、北海道では「北海きたえーる」と本学が指定を受けました。今後は両施設で連携を図り、トップアスリートやジュニア選手の体力測定などを実施していく予定です。

北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生の増加に伴い、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただきます。有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

[募集期間] 令和6年5月まで
(常時受付させていただきます)

[お問い合わせ] 総務部総務課まで
詳細は本学ホームページをご覧ください。
<https://www.hokusho-u.ac.jp/>

御礼申し上げます

株式会社 堀江電気様より
224,400円(現物寄付のため相当額)のご寄付をいただきました。(令和3年度)

小川 裕美様より20,000円のご寄付をいただきました。(令和3年度)

本学同窓会淑萃会様より
292,600円(現物寄付のため相当額)のご寄付をいただきました。(令和3年度)

ご支援賜りましたことを、
厚く御礼申し上げます。

年間行事予定

- 4月 入学式
- 5月 オープンキャンパス
子ども食堂・地域食堂(真願寺)
- 6月 オープンキャンパス
子ども食堂・地域食堂(のっぽ)
- 7月 オープンキャンパス
子ども食堂・地域食堂(のっぽ)
- 8月 オープンキャンパス
子ども食堂・地域食堂(真願寺)
第1期編入学試験
- 9月 創立記念日
オープンキャンパス
大学祭(予定)
前学期学位記授与式
保護者懇談会

2022年4月~2023年3月

- 10月 大学院第1期入学試験
子ども食堂・地域食堂(のっぽ)
- 11月 学校推薦型選抜・特別選抜試験
子ども食堂・地域食堂(真願寺)
- 12月 第2期編入学試験
オープンキャンパス
子ども食堂・地域食堂(のっぽ)
- 1月 大学入学共通テスト
- 2月 A日程試験入学・第3期編入学試験
大学院第2期入学試験
子ども食堂・地域食堂(真願寺)
- 3月 B日程試験入学・第4期編入学試験
学位記授与式

今年もたくさんの「せんせい」が生まれます!

令和4(2022)年度採用の公立学校教員採用候補者選考検査において、111名(現役65名、既卒46名)が第2次選考に合格し、教員登録されました。過去5年間、北海道と札幌市の採用検査における本学現役生の合格率は、受検者全体の数字を上回っており、令和3年度と4年度の比較では、全体の合格率が32.2%から31.5%とわずかに低下した一方、本学現役生の合格率は38.3%から47.1%と大きく上昇しました。

本学では教職センターと各学科の連携によって対策講座などを早期から計画的に実施し、目標実現を支援しています。今後も教職員一丸で学生に寄りそい、地域で活躍できる教員養成を推進してまいります。

合格おめでとうございます!

令和4年度
教員採用候補者選考検査
登録者数 **111**名

令和4年1月6日現在



優しい学生さんが混雑時に、
「お手伝いしましょうか」って。

井内 美流 さん — 学生食堂スタッフ

こ ー 今で働いて17年目だと思いが、たぶん(笑)。会計などの事務作業や、開店時にはカウンターに立って提供のお仕事をしています。現在スタッフは11名いて、チームワーク抜群です。学生のみならずもとても優しいんですよ。混雑時に待たされても、かえって私たちのことを心配し「お手伝いしましょうか」と声をかけてくれたりして。私の娘も20代で、学生さんと近い年齢です。親心というわけではありませんが、とくに一人暮らしの学生さんにとって、学食は食生活を充実させる大切な場ですので、やりがいを感じながら働いていますね。学食の風景って、時期によって

いろいろ変わるんです。学期末には先生が学生さんを連れていらっしやることが多いですね。おそらくですが「試験がんばったね」という感じなのでしょう。学生さんの数が少ないときは、教育実習なのかな、いろんな部活の試合が重なっている日なのかな、なんて想像しています。実は私もこの大学の出身なんです。当時は別の建物に学食がありました。定食は数量限定で、早い者勝ちみたいな感じでした(笑)。今は基本的に開店時間にはいつでも提供できますのでご安心ください。卒業生のみなさんも、近くにいらしたときは、ぜひ懐かしいメニューを楽しんでいただければと思います。

PROFILE

江別市出身。北海道女子短期大学(現・本学)の工芸美術学科で染色を専攻。趣味はパンづくりで「もちろん江別小麦を使っています」。イチオチの学食メニューは、新登場の「ヤンニョムチキン(ごはん、みそ汁、小鉢付きで450円)」

